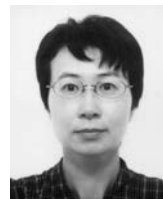


心理学的支援法 I

2018～

科目コード

FF3554



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	2年以上	日笠 真理子

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。

※2020年度より、スクーリングが8コマになります。

※スクーリングを別教員（重宗祥子先生）が担当します。

※この科目は、スクーリング受講にあたって条件がありますので、ご注意ください。

科目の概要

■科目の内容

「心理支援」「心理学的支援法」という言葉は、我が国の心理学の専門用語としては比較的新しいものです。従来は臨床心理学などに基づく心理学的な支援・援助は、多くが「カウンセリング」「心理療法」と呼ばれてきました。国家資格としての公認心理師が法的に位置づけられ、2018年4月より養成カリキュラムがスタートしました。その中で、心理学に固有の、カウンセリング・心理療法・他の支援方法を包含する新しい用語として名称化されたものが、「心理支援」「心理学的支援法」です。

心理的な問題で苦しむ人々を支援したり、その人固有の豊かな生き方を模索することを支えたりする“こころの専門家”になるための土台となるのが、この「心理学的支援法」という科目です。

日常生活の中で友人や家族の悩みの相談に乗ることはよくあることでしょう。心理学的支援法はそれと何がちがうのでしょうか。この科目では、心理学的支援法とは一体何なのか、というところから、歴史、様々な理論と方法、実際行われる作業までを広く学びます。たとえるなら世界地図を見るようなものです。五感と想像力を働かせて、面白さや意味深さを感じ取ってください。その中で上の問いへの答えが実感できるはずです。この科目は、その先の一つ一つの国を訪れるための入り口なのです。

■到達目標

- 1) 代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界を説明することができる。
- 2) 訪問による支援や地域支援の意義について説明することができる。
- 3) 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法について述べるすることができる。
- 4) プライバシーへの配慮について説明することができる。
- 5) 心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、心の健康教育について解説できる。

■教科書（「心理学的支援法II」と共通）

末武康弘『心理学的支援法—カウンセリングと心理療法の基礎』誠信書房、2018年
(スクーリング時の教科書) 上記教科書を参考程度に使用します。また、配付資料を使用しますが、主に

以下の参考書籍から資料を作成しますので、さらに学習を進めたい方にはご一読をお勧めします。

参考書籍 セーラ・フェルス・アッシャー著『精神力動的サイコセラピーテクニック入門』岩崎学術出版社、2018年

■履修登録条件

この科目は、受講条件の達成に必要な科目をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録可能です。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40%+スクーリング評価or科目修了試験60%

■参考図書

乾吉佑・氏原寛・亀口憲治・成田善弘・東山紘久・山中康裕編『心理療法ハンドブック』創元社、2005年
鏑幹八郎・名島潤慈編著『心理臨床家の手引（第4版）』誠信書房、2018年

スクーリング

■スクーリング受講条件

スクーリング申込締切日までに「心理学概論A」「心理学概論B」「福祉心理学」「臨床心理学概論Ⅰ」4科目のレポート提出済であること。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	心理学的支援の概要①	歴史と現代の心理学的支援
2	心理学的支援の概要②	領域と方法、支援の基礎となるもの
3	精神分析／精神力動論	無意識の発見とこころのシステム
4	精神分析の概要	精神分析の基本概念と実践
5	精神力動的サイコセラピー	精神力動的理解を基本とした心理面接
6	現代社会と精神力動的心理支援①	精神力動的人間理解ーアセスメント・フォーミュレーション
7	現代社会と精神力動的心理支援②	様々な領域での支援にどのように活かすか

回数	テーマ	内容
8	日常生活と精神力動的人間理解	支援を行う自分自身について、日常生活の中で理解を深める
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配布資料を中心に講義を進めます。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング 評価基準

スクーリング中に学んだ内容から出題します（自筆のノートのみ持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

講義内容について関心をもっていること、学びたいことを各自考えて来てください。

（「心理学的支援法Ⅰ」または2019年度以降に「心理療法」を履修登録の方）

教科書の第1～5章、第8章、第11章を必ず読んできてください。

（2018年度以前に「心理療法」を履修登録の方）

教科書の第1章、第2章（とくに1の力動論的立場と2のパーソナリティの成長論）、第3章、第4章、第6章、第12章、第13章、第14章を必ず読んできてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	心理学的支援法への誘い（第1章）	心理支援や心理学的支援法が求められるようになった背景と、心理支援・心理学的支援法とは何かを学ぶ。	心理学的支援法の概要を理解する。
2	心理学的支援法の特徴（第2章2-1）	日常会話や相談と異なる心理学的支援法の特徴を学ぶ。 心理学的支援法と他の専門的な対人的支援法との異同について学ぶ。	心理学的支援法の特徴を理解する。
3	心理学的支援法の効果と限界（第2章2-2・3）	心理学的支援法にどのような効果があり、どのような限界があるのかを学ぶ。	心理学的支援法の効果と限界を理解する。
4	心理学的支援法の対象①（第3章3-1～3-2(2)）	心理学的支援法が対象とする心理的問題の背景や成因を学ぶ。 幼児期・児童期・思春期・青年期にみられる特徴的な心理的問題について学ぶ。	心理学的支援法が対象とする心理的問題についての概要を知り、幼児期から青年期に特徴的な心理的問題について理解する。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
5	心理学的支援法の対象② (第3章3-2(3)~3-3)	成人期・高齢期にみられる特徴的な心理的問題とその他の心理的問題について学ぶ。	成人期と高齢期に特徴的な心理的問題とその他の心理的問題について理解する。
6	心理学的支援法の発展① (第4章4-1)	心理学的支援法としての心理療法(サイコセラピー)とカウンセリングはどのような歴史的背景から生まれ、発展してきたのかを学ぶ。	心理療法とカウンセリングの生まれた歴史的背景と発展について理解する。
7	心理学的支援法の発展② (第4章4-2)	心理療法(サイコセラピー)とカウンセリングが合流して発展していく歴史的展開について学ぶ。 心理療法とカウンセリングの共通点と相違点について学ぶ。	心理療法とカウンセリングの異同を知り、両者の合流と歴史的展開について理解する。
8	心理学的支援法のさまざまな理論と方法① (第5章5-1・2)	心理学的支援法としてのカウンセリング/心理療法の海外と日本における第4章で扱った時期以降の現在までの発展について学ぶ。心理学的支援法の主要なパラダイムにはどのようなものがあるかを概観する。	海外・日本でのカウンセリング/心理療法の現在までの発展を理解し、心理学的支援法の4つの主要な立場を知る。
9	心理学的支援法のさまざまな理論と方法② (第5章5-3)	心理学的支援法の4つの主要なパラダイム、それぞれの特徴と、それぞれに含まれる理論・方法・提唱者を学ぶ。	心理学的支援法の4つの主要なパラダイムの特徴と、それぞれに含まれる理論・方法・提唱者を知る。
10	心理学的支援法の主要理論① (第10章10-1)	4つの主要な理論のうち「その他の理論・方法」のうち、家族療法とブリーフセラピーについて学ぶ。(3つの主要な理論は心理学的支援法Ⅱの学習内容となっている。テキスト第6~9章)	家族療法とブリーフセラピーについて理解する。
11	心理学的支援法の主要理論② (第10章10-2・3)	4つの主要な理論のうち「その他の理論・方法」のうち、さまざまなクリエイティブセラピー(表現・芸術療法)と現代的で統合的な諸理論について学ぶ。	さまざまな表現・芸術療法と、現代的・統合的な理論である交流分析、対人関係療法、動機づけ面接などについて理解する。
12	心理学的支援法の主要理論③ (第10章10-4・5)	4つの主要な理論のうち「その他の理論・方法」のうち、さまざまなエスノセラピー(民族文化療法)と、折衷的・統合的・多元的アプローチについて学ぶ。	日本独自の心理療法である森田療法・内観療法について理解する。また特定の理論・方法に拘らない実践方法について理解する。
13	心理学的支援法のプロセスと実際① (第11章11-1(1)A、(2)、11-2(1))	心理学的支援法のプロセスについて総合的な観点から学ぶ。(主要な3つの理論的立場(パーソンセンタードセラピー、精神力動的セラピー、認知行動療法)によるプロセスの捉え方は心理学的支援法Ⅱで扱う。第11章11-1(1)B,C,D) 心理支援の初期の段階における実際と留意点について学ぶ。	心理学的支援法の全体的なプロセスと、初期段階における実際的作業及び留意点について理解する。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
14	心理学的支援法の実際 (第11章11-2)	心理支援の探求・展開・終結の三段階における実際と留意点について学ぶ。	心理支援の初期段階以降の終結までの三段階での実際の作業及び留意点について理解する。
15	心理学的支援法をさらに学ぶために (第12章)	専門的な理論と方法を修得するために、今後どのように心理学的支援法の知識的学習を深め、体験学習とトレーニングを積み重ねていけばよいかについて学ぶ。	心理学的支援法の修得のための、今後の具体的な学び方を理解する。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください (Web解答可)。
2 単位め	<p>心理学的支援法の実際について、以下を盛り込んで1,800~2,000字以内でまとめなさい。字数が守られていないと採点対象となりません (再提出となります)。</p> <p>①効果と限界 ②総合的観点から見たプロセスの4段階のそれぞれにおける実際の作業と留意点 ③①と②をまとめる中で、あなたにとって特に印象に残ったことや考えたこと。</p>

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2019年度以前履修登録者) 2020年4月よりレポート課題の2単位めが一部変更になりました。『レポート課題集2019』記載の課題でも2021年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

1単位め アドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

また、教科書巻末の用語集をよく読んでください。各章の末尾の理解度確認テストで8問以上正解できるようにしてから、客観式レポート課題に解答してください。

2単位め アドバイス

参考図書を併せて読むと教科書の理解が深まります。さらに興味をもったことに関しては教科書の巻末に載っている文献も是非読んでみてください。

頭で理解しようとするだけでなく、実際に自分が心理支援を行っているところや受けているところをイメージしながら、自らの血肉となるような理解を目指してください。“心理学的支援法”は心理支援者とクライアントという生身の人間同士の出会いの中から生まれ、それに共感、あるいは批判する多くの人たちの試行錯誤によって育てられたものだということを忘れないでください。

科目修了試験

■評価基準

用語と内容を正しく理解し、記述していること。また、具体例を求められている問題では、具体例と全体的な説明の両方が的確に関連付けられ、記述されていることが評価されます。